



テーマ銘柄

アナログ半導体

アナログ半導体は人間と電子機器のインターフェイス

音や光、温度、速度などの物理的な現象の変化はアナログ信号です。電子機器は、搭載されたセンサーやタッチパネルなどからアナログ信号を読み取り、アナログ信号をデジタル信号に変換して処理しています。逆に、スピーカーやイヤホン、スマホ、パソコンなどのデバイスに情報を出力する場合は、アナログ信号に変換する必要があります。このようなアナログ信号とデジタル信号の変換や制御を行うのが、アナログ半導体です。アナログ半導体は人間と電子機器のインターフェイスとして現代の生活に欠かせません。

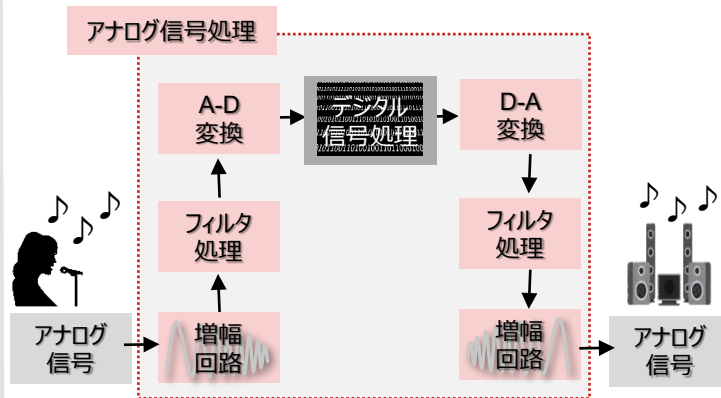
クルマの電装化・電動化が市場拡大に寄与

アナログ半導体にはアナログ信号をデジタル信号に変換するA-Dコンバーターや、その逆を行うD-Aコンバーターの他に、増幅や線形回路を表現するオペアンプ(演算増幅器)、コンパレーター(比較器)、回路のオン・オフを切り替えるアナログスイッチなどがあります。近年では、電子機器に加え、クルマにADAS(先進運転支援システム)が搭載され、センサーなどでアナログ信号を多く取り込むようになってきています。また、駆動モーターの電圧を「オン・オフ」だけでなく「やや高く、やや低く」と、きめ細やかに制御するのもアナログ半導体が関係しています。アナログ半導体が無ければ、適度に減速したり加速したりすることは困難です。

関連企業の業績拡大が期待される

WSTS(世界半導体市場統計)では、2023年の世界の半導体市場が約5,200億米ドル、そのうちアナログ半導体は約810億米ドルになったとみています。半導体市場全体が10年間で約55%拡大する中、アナログ半導体市場は同期間で83%拡大するなど、半導体市場の中でも大きく成長しています。クルマの電動化や電子機器の進化にアナログ半導体は欠かせず、今後も需要の拡大が期待されます。

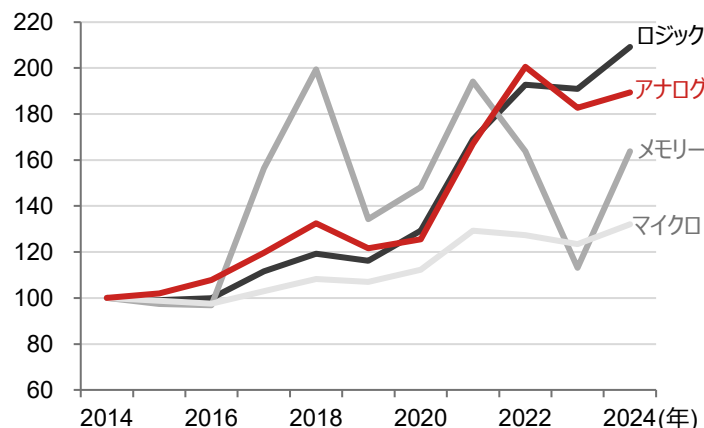
アナログ半導体の役割(イメージ図)



(注)全てを網羅しているわけではない。図中のA-Dは、Aがアナログ、Dがデジタル。(出所)各種資料より野村証券投資情報部作成

製品別の半導体市場規模の推移

(2014年=100)



(注)データは年次で、2023年以降の数値はWSTSの推定・予想値(2023年11月28日時点)。(出所)WSTSより野村証券投資情報部作成

ご参考：アナログ半導体関連銘柄の一例

コード	銘柄名	概要
6723	ルネサスエレクトロニクス	車載用マイコンで世界トップクラスのシェアを有する。自動車や産業向けにアナログ半導体も手掛ける。
6963	ローム	パワー半導体とアナログ半導体を主力としており、自動車や産業機器向けに製品を展開している。
A0019/ ADI US	アナログ・デバイス	アナログ半導体の世界大手企業。産業機器・ヘルスケア・航空宇宙や自動車向けを中心に、幅広い業界に製品を展開している。近年はM&Aにより、業容を拡大させている。
A0731/ TXN US	テキサス・インスツルメンツ	アナログ半導体で世界トップクラスのシェアを有する。世界30ヶ国超の市場で半導体の設計・製造・販売を手掛ける。産業機器や車載、通信機器など、幅広い分野に製品を展開している。
A1025/ SWKS US	スカイワークス・ソリューションズ	アナログ半導体やミックスドシグナルIC(注3)の設計、製造、販売を手掛けている。主要顧客はアップル社で、2023年度の同社向け売上高は全体の66%に達している。
A3910/ STM US	STマイクロエレクトロニクス	スイスに本社を置く半導体メーカー。アナログ半導体に加え、パワー半導体やセンサーなどを手掛けており、自動車向けが主力となっている。
A7561/ MPWR US	モリシック・パワー・システムズ	アナログ半導体やミックスドシグナルICの開発や設計、販売を行う。ファブレスの形態をとっている。用途別では、ストレージ&コンピューティングやデータセンター、自動車向けなどが中心となっている。
G0333/ IFX GY	インフィニオン・テクノロジー	世界トップクラスの車載半導体メーカー。パワー半導体で強みを有しているほか、アナログ半導体も手掛けている。

(注1)全てを網羅しているわけではない。(注2)外国株式のコードは、野村コード/ブルームバーグコード。(注3)アナログ半導体とデジタル半導体が複合されている混合信号集積回路。(出所)各種資料より野村証券投資情報部作成

ご投資にあたっての注意点

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.43%(税込み)(20万円以下の場合は、2,860円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

国内株式(国内REIT、国内ETF、国内ETN、国内インフラファンドを含む)の売買取引には、約定代金に対し最大1.43%(税込み)(20万円以下の場合は、2,860円(税込み))の売買手数料をいただきます。国内株式を相対取引(募集等を含む)によりご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただけます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただくことがあります。国内株式は株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

外国株式の売買取引には、売買金額(現地約定金額に現地手数料と税金等を買の場合には加え、売の場合には差し引いた額)に対し最大1.045%(税込み)(売買代金が75万円以下の場合は最大7,810円(税込み))の国内売買手数料をいただきます。外国の金融商品市場での現地手数料や税金等は国や地域により異なります。外国株式を相対取引(募集等を含む)によりご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただけます。ただし、相対取引による売買においても、お客様との合意に基づき、別途手数料をいただくことがあります。外国株式は株価の変動および為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

債券を募集・売出し等その他、当社との相対取引によってご購入いただく場合は、購入対価のみお支払いいただけます。債券の価格は市場の金利水準の変化に対応して変動しますので、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。加えて、外貨建て債券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

投資信託のお申込み(一部の投資信託はご換金)にあたっては、お申込み金額に対して最大5.5%(税込み)の購入時手数料(換金時手数料)をいただきます。また、換金時に直接ご負担いただく費用として、換金時の基準価額に対して最大2.0%の信託財産留保額をご負担いただく場合があります。投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、国内投資信託の場合には、信託財産の純資産総額に対する運用管理費用(信託報酬)(最大5.5%(税込み・年率))のほか、運用成績に応じた成功報酬をご負担いただく場合があります。また、その他の費用を間接的にご負担いただく場合があります。外国投資信託の場合も同様に、運用会社報酬等の名目で、保有期間中に間接的にご負担いただく費用があります。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。従って損失が生じるおそれがあります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。また、上記記載の手数料等の費用の最大値は今後変更される場合がありますので、ご投資にあたっては目論見書や契約締結前交付書面をよくお読みください。

野村證券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会/日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

過去に国内で募集・売出しを行ったもの、または東証上場銘柄等を除いて、外国証券は我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われておりません。他社比較のためやスクリーニングなどにおいて、会社名の記載を行なうことがありますが、これは投資勧誘を意図したものではありません。本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、金融商品取引法に定める外国証券情報ではありません。

テクニカル分析は過去の株価・為替等の値動きを分析・表現したものであり、将来の動きを保証するものではありません。また、記載されている内容は、一般的に認識されている見方について記したのですが、チャートの見方には解釈の違いもあります。

本動画および本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。また、将来の投資成果を保証するものでもございません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身のご判断で行ってください。なお、使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましては、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。また、本資料は提供させていただいたお客様限りでご使用いただけますようお願い申し上げます。また、動画の無断複製・転載は、固くお断りいたします。

野村證券株式会社は、日本の金融商品取引法に従い、金融庁に登録された金融商品取引業者です。

日本国外の居住者は、本動画で言及されている投資及びサービスを利用することはできません。

FTSE世界国債インデックスに関する注意事項：FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

MSCIデータの利用に関する注意事項：本資料中に含まれるMSCIから得た情報はMSCI Inc.(「MSCI」)の独占的財産です。MSCIによる事前の書面での許可がない限り、当該情報および他のMSCIの知的財産の複製、再配布あるいは指数などいかなる金融商品の作成における利用は認められません。当該情報は現状の形で提供されています。利用者は当該情報の利用に関わるすべてのリスクを負います。これにより、MSCI、その関連会社または当該情報の計算あるいは編集に関与あるいは関係する第三者は当該情報のすべての部分について、獨創性、正確性、完全性、譲渡可能性、特定の目的に対する適性に関する保証を明確に放棄いたします。前述の内容に限定することなく、MSCI、その関連会社、または当該情報の計算あるいは編集に関与あるいは関係する第三者はいかなる種類の損失に対する責任をいかなる場合にも一切負いません。MSCIおよびMSCI指数はMSCIおよびその関連会社のサービス商標です。

世界産業分類基準(GICS®)：スタンダード&プアーズはモルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル(MSCI)と共同で作成した世界産業分類基準(Global Industry Classification Standard=GICS)を採用しています。この世界産業分類基準の目的は投資調査及び資産運用のプロセスをより容易にすることによって、世界の金融専門家の便宜を図ることにあります。世界の投資家、投資顧問会社、投資アナリストなど各方面の専門家との議論に基づいて設計されたこの分類基準は正確、完全かつ標準化された産業の定義に対する世界の金融界のニーズに応えることを目的に作成されています。

世界産業分類基準は、11のセクター、25の産業グループ、74の産業、及び163の産業サブグループからなっています。(2023年3月時点)

業種分類は主として売上高に基づいて行われ、二義的な基準として利益を検討対象にするという方法を採用しており、事業毎または商品毎に精査・分析して行っています。

1つの企業は各階層で1つのグループにしか入ることができません。3つ以上の分野にまたがって事業展開している多角化企業で、売上高または利益のどちらかが全体の半分以上を占める事業部門がない場合は、コングロメリット産業サブグループ(一般事業会社セクター)、またはマルチセクター持株会社産業サブグループ(金融セクター)に分類されます。

分類は投資対象ユニバースを十分に反映するよう、毎年見直しを行います。